

令和二年度入学試験 A-I

京都学園中学校

国語

注意

- 問題は全部で十四ページあります。
- 「試験開始」の合図があるまで問題を開いてはいけません。
- 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
- 質問がある場合は、静かに手をあげ、監督者が来るのを待ってください。
- 「試験終了」の合図があったらすみやかに解答をやめ、以後は監督者の指示にしたがってください。

一

次の①～④の文の内容に適合することわざを後から選び、記号で答えなさい。

① 昨日までの悪天候が嘘うそのように、今日は雲一つない快晴だが、カバンの中に折りたたみ傘がさを入れておこう。

② フルマラソンを完走できるかどうか心配だったが、実際に走ってみると気持ちよく走りきることができた。

③ テスト勉強をするところを間違まちがえて点数がとれなかった日の帰り道、急な雨に降られてびしょ濡れぬになってしまった。

④ 絵を描くえがことが好きな弟は、ずっと絵を描き続けているうちに、全国の絵画展で入選した。

- ア 好きこそものの上手なれ
イ 案あんずるより産うむが易やすし
ウ 鉄は熱いうちに打て
- エ 泣なきつ面に蜂はち
オ 石橋をたたいて渡る

三 次の①～④にはそれぞれ一つずつ部首の違う漢字があります。それぞれ記号で答えなさい。

① ア 冬 イ 冷 ウ 凍 エ 次

② ア 放 イ 旅 ウ 族 エ 施

③ ア 安 イ 空 ウ 宅 エ 家

④ ア 種 イ 秋 ウ 和 エ 租

三 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

アフリカの森の中で、チンパンジーは^①社会で生きていくために必要なことを自然に学んでいる。親や、おじいさんおばあさんが手本になる。子ども同士で遊びながら、他者とのつきあい方を覚える。

言い換えれば、経験と学習が必要だ、ということでもある。たとえば、動物園や研究所で飼育されたチンパンジーで、仲間がおらず、生まれて間もなくからひとりだけで過ごした場合、社会性に問題が生じることが多い。あいさつができない。ケンカをしても仲直りをしない。だから、他のチンパンジーと一緒に^{いっしょ}になっても、うまくやっけていけない。そして、子育てができない。本書でここまで見えてきたように、チンパンジーは高い社会的知性をそなえている。しかし、それが適切に発揮されるには、それ相応の経験が必要だということだ。

ひるがえって人間の現代社会を見てみると、社会に問題を抱えていることに気づかされる。いじめ、ひきこもり、子どもの虐待。社会の中で、人と人、親と子どものかかわりに問題が生じている。ただしこれらは、何も ② 今に始まったことではないのかもしれない。はるか昔、ヒトとチンパンジーが分かれる前から、そしてさらにずっと前から、霊長類は集団を作って仲間と一緒に暮らしてきた。仲間が集まった時点で、社会的な問題が生じた。誰とどう付き合うのか。競合した場合にどう振る舞ったらよいのか。協調するにはどうしたらよいのか。そうした社会的な問題を解決するのは、容易なことではなかった。だからこそ、社会的知性が重要になった。そしてだからこそ、社会的知性を「ゲンドウリョク」として、知性が進化してきたのかもしれないのだ。

社会的知性を考えるうえで、3つのポイントを主張したい。ひとつめは、(A)、という点だ。知性には様々な側面があるという主張がある。言語的知性、論理数学的知性、空間的知性などである。社会的知性も、その一つだ。しかし、一般には、社会的知性が「知性」として意識されることは少ないのではないだろうか。状況に合わせて、うまく他者と関係をもつ。そのためには、まぎれもなく「知性」が使われているのである。

2つ目のポイントは、(B)という点だ。たとえば、言語や数学が知性の側面であるというのは理解しやすい。そして、こうした知性を伸ばすには、経験と学習が必要だということも十分知っている。だからこそ、学校で子どもを教える授業があり、テキストがあり、勉強をする。確かに、社会性も、学校で教わることに含まれる。道德の時間がこれに相当するだろう。しかし、数学や国語と違って、^③ 社会的知性は、テキストを読んで勉強するというのにはなじまない。社会的知性を伸ばすためにドリルで鍛えてペーパーテストで² ヒョウカするというたぐいのものではない。やはり、実際に他者とかかわることを通して学ぶことが必要だ。

3つ目のポイントは、(C)であるということだ。体も心も、生命の誕生以来、長い進化の過程で形成されてきたものだ。ヒトとチンパンジーは、その生命の歴史を、つい最近まで共有してきた。だから、社会的知性においても多くの特徴を共有している。

もちろん、違うところもある。ヒトとチンパンジーは違う生き物であり、違う社会を作っている。第4章で見たように、ヒトとチンパンジーの脳の発達は、すでに胎児期から違う。脳の違いは、当然ながら、知性の違いへとつながっているはずだ。それぞれの社会的知性は、それぞれの種がそれぞれの社会で生きていくためにふさわしいようになってきているだろう。

チンパンジーの社会的知性は、チンパンジーの社会で生きていくのにふさわしいようになっていく。それは、約20個体から150個体までの個体数からなる * 離合集散の社会であり、世代の異なる老若男女がいる社会である。 ヒトの場合も、その社会的知性は、ヒトの社会にふさわしいようになってきているはずだ。しかしそれはおそらく、人類が登場したときの社会だろう。初期人類は、現在のチンパンジー社会とそんなに変わらない個体数からなる集団で生活をしてきたと推測できる。

ヒトの社会は、それから劇的に変わった。見ず知らずの膨大な数の人がすれ違い、入り混じって暮らしている。直接顔を合わせずインターネットを介してコミュニケーションをするようになってしまった。ヒトの社会的知性は、こうした変化についていけているだろうか。

もちろん、知性は、新しい状況にも対応できる柔軟性をそなえている。チンパンジーも、第1章で見たように、野生の暮らしては経験しないような実験的な協力や競争の場面で、見事に対応することができた。ヒトの社会的知性も、現代の新しい状況に対応できる柔軟性をそなえていると信じていい。

しかし、^④初期人類の社会から大きく変わった現代日本で平和な社会を実現するためには、社会的知性が「知性」のひとつであり、それをうまく発揮させるには経験と学習が必要であり、そしてそれは進化の産物だということ、より 3 イツソウ自覚的に意識する必要があるのかもしれない。

(平田聡『仲間とかかわる心の進化』)

* 離合集散 … 離れたり集まったり、一緒になったり別れたりすること。

問一 〰〰部 ー ー 3 のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 ――部 ① 「社会で生きていくために必要なこと」とは何ですか。十字以内で答えなさい。

問三 ――部 ② 「今に始まったことではない」とありますが、何が「今に始まったことではない」かを具体的に表現している例を本文中からぬき出しなさい。

問四 (A) (C) にふさわしい表現を次から選び、記号で答えなさい。

ア 社会的知性が進化の産物

イ 社会的知性が「知性」である

ウ 経験と学習が重要だ

問五 ――部 ③ 「社会的知性は、テキストを読んで勉強するということにはなじまない」とありますが、なぜ「なじまない」のですか。説明しなさい。

問六 ――部 ④ 「初期人類の社会から大きく変わった現代日本で平和な社会を実現するため」とありますが、その実現のために必要なものを二つ、それぞれ二十字程度で答えなさい。

四

次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

〈高校生の「わたし」は同級生でパン屋の息子である「富田くん」に片思いをしている。ある日、家庭教師の「美和ちゃん」とその恋人「村上さん」からの誘いにより、4人で遊園地に行った。〉

遊園地に行った次の日の放課後も、わたしたちはいつものようにアトリエに寄り道した。すっかりおなじみになった近所の公園のベンチには、やわらかい陽ざしがふりそそいでいる。並んでパンをかじっていると、すずめが何羽か寄ってきて、せわしなくパンくずをつつき始めた。

「遊園地、楽しかったね」

わたしが言うと、うんうん、と富田くんもうなずいた。

「美和さんも村上さんも、いい感じだったし」

パンが口いっぱいに入っているの、みあはんもむらはみはんも、と聞こえる。口をもぐもぐさせる足元のすずめと富田くんの横顔を見比べて、わたしは思わず笑ってしまった。

「いい感じだよね、ほんと」

わたしも心から同意する。美和ちゃんと村上さんの組み合わせは、絶妙だと思う。わたしたちもあのふたりみたいになれたらいいね、と言いたかったけれど、恥ずかしくなまって、わざと違うことを言った。

「……やっぱりいいね、大学生って」

「あの車！ バイトでお金ためて買ったんだって。いいよなあ……」

どうやら富田くんがうらやましかったのは、そこらしい。わたしは少しがっかりしたような、でも逆に安心したような、^①ちよつと複雑な気持ちになる。

わたしたちが大学生になったら、どんなふうだろう。一緒に地元の大学に進んで、今みたいにちよくちよくパンを食べに行けたらいいのに。あ、でも、もし東京に出るとしたら、有名なお店を食

べ歩けるかも。美和ちゃんがいつも我慢じまんしているように。大学生は平日の昼間に歩けるから、お昼に焼きたてのパンを買える。そうだ、自由な時間が増えるだろうから、パン屋さんでバイトもしたい。わたしたちももっと長く一緒にいたら、美和ちゃんと村上さんのようにすてきなカップルになれるだろうか……つきあってもいいのに、最近わたしの想像力がよく暴走するのは、美和ちゃんや聡子にしかけられてるせいかもしれない。

A と考えながら隣となりの富田くんをうかがうと、早くもふたつめのパンにとりかかっている。「富田くんは、大学に入ったらなにがしたい？」

何気なく聞いたのは、自然ななりゆきだったと思う。文系なのか理系なのか、志望の大学はもう決まっているのか、そんな内容を予想していたから、返ってきた答えを聞いてびっくりした。

「あ、おれ、大学は行かないかも」

富田くんは、B とそう言った。

「フランスにパンの修行しゅぎょうに行きたいんだ」

別にあの店を継つぎたいとかっていうんじゃないけど、やっぱり本場を見てみたいっていうのがあるんだよなあ。

「親父おやじの知り合いもけっこういるみたいだし」

そうだよな、とわたしはC とあいづちをうつ。富田くんの想像する未来に、わたしはいいない。ついさっきまでの楽しい想像は一瞬いつしゅんでふきとび、ばかみたい、とわたしは心の中でつぶやいた。ひとりで舞い上がっちゃって、ばかみたい。

「どこがいいのかな、やっぱりパリかな？」

富田くんが悪いわけじゃない。でも、目をきらきらさせながら将来の計画を語る富田くんを、わたしは少し恨うらんだ。そんなにも期待に満ちた、楽しそうな顔をすることはないのに。

② 「行きたい大学とかもう決めてるの？」

まるで他人ごとのような聞きかただ。まあ、他人ですけど。最初のショックが過ぎると、わたし

は投げやりな気持ちになってきた。

「ううん、でもとりあえずどこかに入って、いっぱい遊ぶ」

「ふうん」

一応話を続けながらも、富田くんはパンの袋ふくろをがさごそと探り、

「お、新作だ」

なんて言う。

「ちよっと味見する？」

すでにパンのほうにすっかり気をとられている様子なのが、
③ しゃくにさわった。

「富田くんも大学くらいは出といたほうがいいんじゃないの？」

自分の声がとがっているのがわかった。

「うーん、でもやりたいこともないのに適当に大学入ってもなあ」

富田くんは、Dと首をかしげている。

「あんまり夢みがちなのも大変だよ？」

われながら、「イシワルな言いかたになった。本当はこんなことを言いたいんじゃないのに、言葉が勝手にこぼれてしまう。富田くんが、びっくりしたようにこっちを見た。

「どうしたの？」

別に、と返したけれど、もう遅おそかった。空気が変にゆがんでしまっている。富田くんは、不意²に立ち上がり、少し離れたゴミ箱に勢いよくアトリエの紙袋を投げ捨てた。ぱこん、と乾かわいた音がする。

「別におれ、夢をみてるつもりじゃないんだけどなー」

「そういう意味で言ったんじゃないよ」

否定したものの、あまり心がこもっているようには響ひびかなかった。

こういうとき、一体どうやって場をフォローしたらいいのだろう。たとえば早紀なら、さびしい

よー行かないで、と冗談めかして言うだろう。たとえば美和ちゃんなら、わたしも一緒に行きたい、と真顔で身を乗り出すかもしれない。でもわたしは、なにも気のきいたことを言えずに、ただ黙って自分の靴を見つめることしかできなかった。④ 耳が熱くなっている。

「でもさ、なんの目的もなく大学に行っても、お金と時間のむだだと思っ

「いっになく、富田くんもむきになっているみたいだった。」

「おれは興味ないな、お気楽大学生なんて」

ここで、まだまだ先の話だよ、とか笑って、そのまま会話を終わらせてしまったほうがよかったのだろう。でも、Xに美和ちゃんたちをけなされた気がして、わたしはかちんときた。

「大学生がみんなそうだってわけじゃないよ」

思いのほか、強い口調になった。

「まあ、そうだけど」

富田くんがヒニクっぽく肩をすくめる。こんなに感じの悪い富田くんを見るのは初めてで、わたしもつられて攻撃的になった。

「だいたい、早く社会に出るのがそんなにえらいかなあ」

決定打をうってしまった、⑤ 手ごたえがあった。

「えらいなんて誰も言っていないじゃん」

富田くんが思いきり不機嫌な声を出す。

「……帰ろうか」

いつのまにか日が暮れて、公園には街灯がともっていた。すずめも姿を消している。薄闇の中で、富田くんの表情はもうよく見えなかった。

(瀧羽麻子『うさぎパン』)

問一 ㄣ部ーㄣ部ーㄣ部のカタカナは漢字に直し、漢字はよみがなを答えなさい。

問二 ー部 ①「ちよっと複雑な気持ちになる」とありますが、この時の「わたし」の心情を説明しなさい。

問三 A ㄣ D に入る表現としてふさわしいものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア ぼんやり イ くよくよ ウ あっさり エ つらつら オ のんびり

問四 ー部 ②「わたしは少し恨んだ」とありますが、その理由を説明しなさい。

問五 ー部 ③「しゃくにさわった」・④「耳が熱くなっている」とありますが、この時の「わたし」の気持ちとしてふさわしいものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 焦りあせ イ 不快 ウ 驚きおどろ エ 悲しみ オ あきらめ

問六 X に入る漢字としてふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア 実 イ 特 ウ 正 エ 暗

問七 — 部 ⑤ 「手ごたえがあった」とありますが、その「手ごたえ」としてもっともふさわし

いものを選び、記号で答えなさい。

- ア 富田くんに嫌きらわれてしまった、という手ごたえ
- イ 富田くんを怒おこらせてしまった、という手ごたえ
- ウ 気持ちを伝えることができた、という手ごたえ
- エ 正しい意見を言ってしまった、という手ごたえ

〈問題はこれで終わりです〉

受験番号

学校名

小学校

氏名

一

①

②

③

④

二

①

②

③

④

三

問一 1

2

3

問二

問三

問四 A B C

問五

問六

四

問一 1

2

3

問二

問三 A B C D

問四

問五 ③ ④

問六

問七

点線より下には何も記入しないこと。《成績集計欄》

AI

国語A 1

【計12点】

① オ ② イ ③ エ ④ ア

【計8点】

① エ ② ア ③ イ ④ ウ

【計39点】

問一 1 原動力 2 評価 3 一層 (2点×3)

問二 他者とのつきあい方 (4点)

問三 いじめ、ひきこもり、子どもの虐待。 (4点)

問四 A イ B ウ C ア (3点×3)

問五 社会的知性は他者とのかわりを通して学ぶことが必要だから。 (6点)

問六 社会的知性を発揮させるための経験と学習。

社会的知性が進化の産物だという自覚的な意識。 (5点×2)

【計41点】

問一 1 意地悪 2 ふい 3 皮肉 (2点×3)

問二 自分は富田くんと過ごす大学生生活を想像していたが、富田くんはちがう未来を考えていたことにさびしさを感じる一方で、自分の恋心を悟られずにすんでよかったと思う気持ち。 (5点)

問三 A エ B ウ C ア D オ (2点×4)

問四 富田くんがわたしのいない将来の計画を楽しそうに語るのを聞き、富田くんのえがく将来に自分の存在がないとわかり、しかたがないことと思いつながらもくやしかったから。 (6点)

問五 ③ イ ④ ア (4点×2)

問六 エ (3点)

問七 イ (5点)